

産学連携体制の構築に向けた 課題について

平成27年2月4日

内閣府

SIP革新的燃焼技術

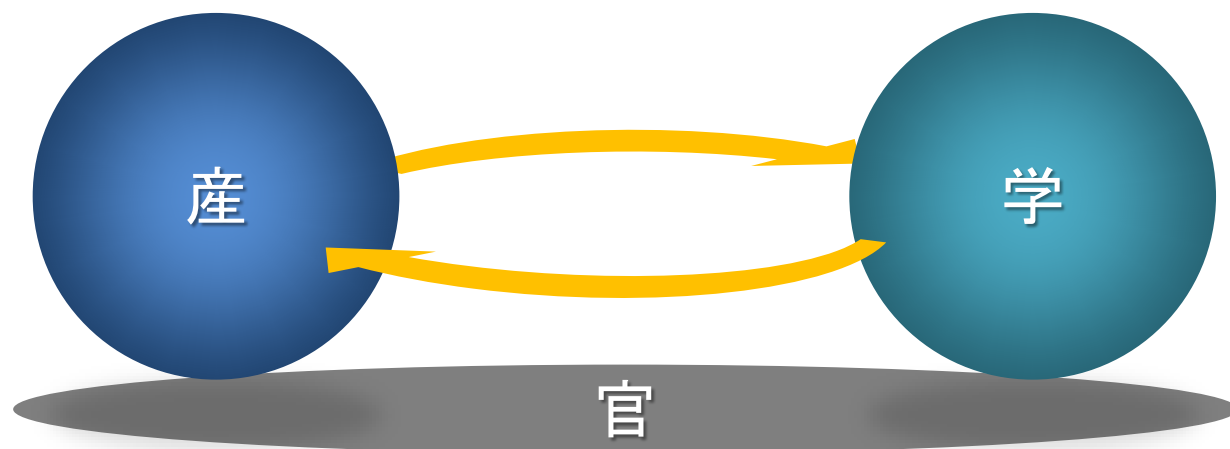
推進委員会事務局

産学連携体制の強化に向けた検討について

強固な産学連携体制における産官学の役割

強固で持続的な産学連携体制においては、産から学へのニーズの明確化、学から産への優れた成果や人材の供給、ならびに相互の人材の行き来などが活性化した好循環が構築されることが必要である。

官は、上記の好循環を促進するための施策や仕組み作りが求められている。



本議題の位置づけ

前回推進委員会においていただいたご意見、および今年度のSIP革新的燃焼技術の活動を通じて明確となった、上記の好循環の確立に向けた課題を事務局にて整理した。

これら課題について、その改善に資する対応策についてご意見いただき、今後のSIP革新的燃焼技術における活動への参考としたい。

産学連携体制の強化に向けた課題について

産学連携体制の構築に向けて、構成員意見等から以下5点が課題として挙げられた。

産から学へのニーズの発信に向けた課題

- ①企業間の協調領域の設定と、大学研究へのニーズの明確化
- ②企業と大学の双方を理解し、両者を繋ぐ人材の育成

大学における実用工学研究の発展に向けた課題

- ③大学における研究環境の整備（設備調達の制約、技術職員の確保）
- ④研究者の育成

実用工学研究の成果の橋渡しに向けた課題

- ⑤大学で創出された成果を企業で使いやすくするための知財ルール整備

産からのニーズの発信に向けた課題

①企業間の協調領域の設定と、大学研究へのニーズの明確化

- 企業間で課題意識を共有し、協調領域を設定し、同領域から、大学での研究に対するニーズを明確化することが必要。
- 産業界からのニーズにもとづき、**大学で行うべきこと(=基礎学理の追究、自由な発想に基づくシーズの創出)、産業界が行うべきこと(=優れた技術の量産化を通じて社会貢献)**を整理し、意識を共有することが必要。
- 上記取組を、SIP革新的燃焼で推進中。

②企業と大学の双方を理解し、両者を繋ぐ人材の育成

- 産学間の技術に係る言語や知識レベル、文化の違いを理解し、企業のニーズを大学の研究に落とし込む人材の存在が重要。
現在、自動車用内燃機関技術組合(=AICE)から大学への研究員派遣を実施しており、産学間の人材流動を推進中。
- 大学の人材の流動化については、**退職金等に係るキャリア形成上の課題を含めて、自由に動ける環境づくり**が必要。

大学における実用工学研究の発展に向けた課題

③大学における研究環境の整備（設備調達の制約、技術職員の確保）

－現在の国の調達制度のもとでは、リードタイムの長い設備等の購入や大学間で統一した製品の購入に制約があり、研究の推進に支障が出ている。

大学の研究能力向上のために、物品調達の現行制度の見直しが必要。

－また、実験を安全かつ効率的に実施するためには、技術職員が不可欠であるが、国立大学では予算上の制約から確保できていない。

大学での工学研究における**技術職員の重要性の見直し**や、**技術職員の雇用に係る資金の確保**等が必要。

④研究者の育成

－実用工学研究は、論文作成の観点から大学内で評価されにくい状況にあり、敬遠されがちな傾向がある。

研究評価における産業界への貢献度の加味や、研究者の企業での勤務経験がキャリアとして評価されるなど、**実用工学に即した評価の在り方**が必要。

－優秀な研究人材の育成のため、産学間や学学間の人材交流を活発に実施し、特に若手研究者の**競争意識・モチベーションを喚起することが重要**。

現在、AICEから大学への研究員の派遣に加え、PDとの座談会や研究参画者間での合宿など、人材交流に係る企画を進行中。

－実用工学研究においては、研究対象が煩雑かつ幅広い分野にまたがるため、チーム体制での研究が必要。**研究マネジメントのノウハウの浸透が重要**であり、SIP革新的燃焼でも同取組を推進中。

実用工学研究の成果の橋渡しに向けた課題

- ⑤大学で創出された成果を企業で使いやすくするための知財ルールの整備
- 企業間での協調領域における研究の推進など、SIP革新的燃焼技術は従来と異なるスキームでの共同研究となっており、その成果を知的財産化するにあたっては、産学ともに従来の考えにとらわれず、ゼロから検討し双方ともに歩み寄ることが必要。
 - 上記に係り、特に大学の意識改革のため、**産学共同研究における使いやすい知財の在り方に係る方針の発信**など、国がリーダーシップを執ることが必要。

本日も議論いただきたい事項

- 前項の課題やその改善に係る対応について、補足や新たに追加すべき事項等についてご意見いただきたい。
- 特に制度面など、国としてアクションすべき事項について、より具体的な課題や改善策について、ご知見をいただきたい。
- 本日も議論いただいた内容は、次年度以降のSIP革新的燃焼技術における活動やガバニングボード(総合科学技術・イノベーション会議の有識者議員)への報告における参考とする。